JAPAN SOCIETY for the STUDY of ADULT and COMMUNITY EDUCATION

学会からのお知らせ

2025年 第1号
通号243号

日本社会教育学会
https://www.jssace.jp/

2025年度　六月集会のご案内

会場校から

大沼義彦・荻野亮吾（日本女子大学）

2025年度の六月集会は、6月7日（土）・8日（日）に日本女子大学で開催する。本学での学会の集会・大会の開催は、2011年の第58回研究大会（西生田キャンパス）以来、約15年ぶりのこととなる。2021年より全学部が統合されたこともあり、今回の会場は交通の利便性が高い目白キャンパスとなる。会員の皆様に快適な研究交流の場を提供できるよう、人間社会学部現代社会学科・教育学科の共催という形で、しっかりと準備を進めていきたい。

本学は、1901年に成瀬仁蔵氏らを中心に設立された日本初の女子大学であり、2021年に創立120周年を迎えた。設立者の成瀬氏の教育理念を集約した「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の三綱領を、初年次教育に明確に位置付けるなど、女子高等教育の伝統を大切にする一方で、国際文化学部や建築デザイン学部など新学部の設立を進め、リカレント教育課程に力を入れるなど、時代の変化にも対応しようとしている。

本学の社会教育主事課程では、必修科目となる前から社会教育実習（旧：社会教育インターンシップ）を創設し、15年にわたり課程の中核に位置付けてきた。教職や企業志望者へのアピールを積極的に行ってきたこともあり、資格の取得者は、教育学科を中心に、毎年30～50名程度となっている。会場校企画では、この社会教育実習を題材にして、「実習を通して考える社会教育の現場と大学の関係性」の開催を予定している。この企画では、社会教育行政やNPOの一線で活躍する職員から、実践をコーディネートする専門性の内実や、この専門性を担保する実習や授業のあり方について提言をいただき、それをもとに大学における養成課程のあり方について議論する予定である。ぜひご参加いただきたい。

【2025年度日本社会教育学会 六月集会】

・日　時：6月7日（土）13：30～18：40
　　6月8日（日）　9：00～17：00
　　※受付は各日、開始30分前から
・会　場：日本女子大学　目白キャンパス
・参加費：1500円（会員の大学院生1000円）
　　学部生は無料（学生証添付の上、申込み）

※必ず事前にお申し込みください。（「お知らせ・募集（六月集会について）」（10頁）もあわせてご参照ください。）

【目　次】

2025年度　六月集会のご案内　会場校から …… 1
各地の研究集会のご案内 …… 2
オンライン連続読書会報告 …… 3
理事会だより／事務局だより …… 4
寄贈図書一覧／会員動向 …… 7
お知らせ・募集 …… 8

各地の研究集会のご案内

※詳細については、学会ＨＰ掲載のプログラムをご参照ください。

【第 49 回 東北・北海道研究集会】

・日　時：5 月 31 日（土）
　　14：00 ～ 17：00
　　6 月　1 日（日）
　　9：30 ～ 15：00
・テーマ：地域再生への教育計画⑥
　　―学校の境界を超える
・会　場：北海学園大学

【東海・北陸地区社会教育研究集会】

・日　時：6 月 22 日（日）
　　10：00 ～ 16：30
・テーマ：学校づくりと社会教育
・会　場：愛知教育大学

【第 49 回　関西研究集会】

・日　時：6 月 29 日（日）
　　10：30 ～ 16：15（予定）
・テーマ：現場とともに交流と対話の方法をさぐる（4）：人口減少に立ち向かう社会教育実践に注目して
・会　場：大阪市生涯学習総合センター

【第 25 回 中国・四国地区社会教育研究集会】

・日　時：6 月 15 日（日）
　　13：00 ～ 16：00
・テーマ：社会教育的視点からみる「地域と学校」
・会　場：広島大学きてみんさいラボ

【九州・沖縄地区六月集会】

・日　時：6 月 21 日（土）
　　10：00 ～ 17：30
・テーマ：地域における居場所づくり、再考
・会　場：久留米市市民活動サポートセンターみんくる他

オンライン連続読書会報告

家族とケアと社会教育：岡野八代『ケアの倫理：フェミニズムの政治思想』（岩波書店 2024 年）を読む

主催：プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」

亀口まか（龍谷大学）

プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」では、「家族とケアと社会教育」をテーマに、岡野八代『ケアの倫理：フェミニズムの政治思想』を読み合う全 7 回（2024 年 10 月～ 2025 年 4 月）のオンライン連続読書会を、月 1 回第三金曜日 12 時から 13 時に開催してきている。7 章立ての本書について 1 回 1 章分を講読範囲に設定し、前半をコメンテーター 2 名による報告、後半を参加者による意見交換を行うという内容で、2025 年 2 月末現在、5 回を終えたところである。申込者数は延べ 45 名、各回 18 ～ 25 名の参加があり、第 2・3・4 回には著者の岡野八代氏の参加を得た。各回のコメントは、プロジェクト研究運営委員のほか、これまでの本プロジェクト研究会、本読書会参加者から会員非会員を問わず参加いただいている。第 1 回を大村隆史会員（香川大学）・辻智子会員（北海道大学）、第 2 回を冨永貴公会員（都留文科大学）・コリー紀代会員（北海道大学）、第 3 回を木下卓弥会員（石巻専修大学）・朱瑩氏（東京大学大学院・非会員）、第 4 回を矢内琴江会員（長崎大学）・辻会員、第 5 回を佐野敦子会員（静岡大学）が務めた。コーディーネーターは第 1・2・4・5 回を亀口まか会員（龍谷大学）、第 3 回を辻会員が担った。毎回、コメンテーターが自らの問題意識にひきつけて論点を提示し、それらに参加者が応答し、そして岡野氏が即興でリプライするというライブ感満載の読みと対話の時間を積み重ねてきている。「ケアの倫理」の射程の深淵さが確認される一方、社会教育実践／研究による「ケアの倫理」への問いや課題も示されてきている。それらを来る六月集会や研究大会での議論に反映させていきたい。

理事会だより

● 2025 年度第 2 回常任理事会

（2024 年 11 月 18 日（月）オンラインにて開催）

出席：常任理事 14 名、全国理事 3 名、事務局次長 1 名、幹事 5 名、事務局員 1 名

1．審議事項

(1) 第 1 回常任理事会議事録の承認がなされた。

(2) 新入会員 1 名について承認された。なお、退会者はなかった。

(3) 担当経費について、改めて資料が提示され、承認された。

(4) 各担当から

①研究担当

・資料に従って説明があった。

・余暇・レク PJ について、プロジェクト完了に伴い、ジャーナル特集化に向けて理事会の協議待ちであることが述べられた。

・男女平等 PJ について、連続読書会に参加を希望する場合は連絡してほしい旨が述べられた。

②ジャーナル担当

・資料に従って説明があった。

・特集ページに関する手続きおよび特集テーマ応募用紙について、資料に従って提案があり、承認された。なお、応募先は事務局ということになった。

・応募用紙の「代表者名（特集編集の中心を担う）」の取り扱いについて質問がなされ、基本的にはプロジェクト研究の代表者が特集の中心的な役割を担ってもらうことになることが確認された。また代表者以外に編集委員を 3 名程度選出し、編集委員はプロジェクト研究にある程度関わっている方が望ましいことが確認された。

③通信・広報担当

・口頭にて報告があった。

・10 月 31 日締め切りのうち、3 件未着となっているため、現在督促をかけている。この他、11 月 30 日締め切りのものがあることが報告された。

・12 月 1 日にアンティ多摩へ入稿予定であり、12 月 16 日頃に第 2 校の確認を理事会にて行い、12 月 21 日発行を目指していることが報告された。

④国際交流担当

・資料に従って報告があった。

・来年度の第 16 回日韓学術交流研究大会について、日程が決まり次第、理事会審議事項として提示することが報告された。

⑤組織・財政担当

・報告・審議事項ともになかった。

⑥特別プロジェクト

・資料に従って報告があった。

⑦倫理委員会

・口頭にて報告があった。

・10 月 31 日に第 3 回の倫理委員会を行った。優先度が高い項目として、学会における会員等の処分について、何らかの規定を作る必要性について意見交換を行い、協議を行うことで合意が得られた。2025 年 1 月の第 4 回で具体的に倫理規定のつくり方について具体的に議論する予定である。

(5) 特定事案への今後の対応について

・資料に従って報告があった。当初 10 月に議論するものであったが、先方の都合により今回となったことが述べられた。再謝罪文の文案については、骨子 4 点を基に今回の議論を受けて作成し、新旧三役・顧問弁護士・理事会で確認することが提案された。

・再謝罪文を出すことの是非については、反対意見（再謝罪文の内容が報告書の再解釈に留まり、現状では不十分であり、特別委員会での調査等を踏まえ、もう少し時間をかけて作成すべきという意見）もあったものの、当初の提案通り一つの区切りとして出すこととして進めることとなった。ただし、議論自体は継続していく必要があることも確認された。

・10 月 24 日より前に被害者弁護士からの学会宛文書の共有の在り方について質問がなされた。総会等で報告済みだが、改めて画面共有のみで提示した（内容は割愛）。

・どのような規程があれば今回のような事態を未然

に防げるのかという再発防止策を、会員がみんなで考えていく必要があるということが改めて確認された。

２．報告事項

(1) その他

・特になし。

● 2025 年度第 3 回常任理事会

（2024 年 12 月 16 日（月）オンラインにて開催）

出席：常任理事 15 名、全国理事 1 名、事務局次長 1 名、幹事 5 名、事務局員 1 名

１．審議事項

(1) 第 2 回常任理事会議事録について軽微な修正ののち、承認された。

(2) 退会者 3 名、新入会員 1 名について承認された。

(3) 2025 年度六月集会・研究大会の開催日程について、下記の通り、説明され、承認された。

・六月集会は 2025 年 6 月 7 日（土）～ 8 日（日）日本女子大学にて開催。

・第 72 回研究大会は 2025 年 9 月 12 日（金）～ 14 日（日）鹿児島大学にて開催。

・第 72 回研究大会日程についても承認されたので、通信への日程掲載が確認された。

(4) HP 管理委託業者との契約継続に関して、提案通り、自動更新という形で進めることとなった。

(5) 各担当から

①研究担当

・資料に従って報告があった。

・前回理事会報告から大きな進展はないことが報告された。

②ジャーナル担当

・資料に従って説明があった。

・特集ページについて提案があり、承認された。

③通信・広報担当

・校正原稿を基に報告があった。

・責任者が不詳であったラウンドテーブル原稿の一部に遅れがあったため、申込時に責任者を明記することを求めることとしたことが報告された。

④国際交流担当

・資料に従って説明があり、承認された。

・開催校の都合により、教室の確定は来年 2 月以降となることが補足された。

・今回、報告者が多かったために議論の時間が少なくなってしまったことを受け、次回は報告を 3 名とし、コメンテーターも 3 名入れることとしたことが報告された。

⑤組織・財政担当

・資料に従って報告があった。

・「学協会別報告書」の作成について提案があり、学会として希望することで承認された。

・第 3 回調査について、学会ホームページに掲載するとともに参加を呼びかけることが依頼された。

⑥特別プロジェクト

・資料に従って報告があった。

・PJ メンバーの増員について提案があり、承認された。

⑦倫理委員会

・報告事項なし。

２．報告事項

(1) 特定事案への今後の対応について

・口頭にて報告があった。

・三役にて再謝罪文の原案を作成し、双方の弁護士が確認を行っている。応答があり次第、メール審議等で諮ることとしたいことが示された。

(2) その他

・特になし。

以上

事務局だより

◇今年は 2026・2027 年度理事選挙の年です。5 月 10 日までに必ず個人データ（特にメールアドレス・所属ブロック）をご確認ください。また選挙資格は 2023 年度までの会費を完納している会員にあります。2023 年度までの会費未納の方は、5 月 15 日（木）までにお納めください（会費納入状況は会員サイトで確認するか事務局まで照会してください。）

◇会費納入状況は、会員サイトへログインして確認できますので、学会費を納めていない会員は、下記へお振込みください。
（9 月で年度が替わりますので 2024.9 から 2025 年度となっています。）

【振込先】ゆうちょ銀行
振替口座 00150-1-87773
※他金融機関からの振込用口座番号：
〇一九 (ゼロイチキュウ) 店（019）
当座 0087773

◇事務局の住所が変更されています。寄贈図書等は下記住所までお送りください。
【住所】〒 189-0012
東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

◇住所・所属変更は各自 HP の会員サイトにログインして変更してください。その際、所属ブロック・所属分類の変更もお忘れなく。（通信に掲載するため所属変更の方は、メールにて事務局にもご連絡ください。）

※『社会教育学研究』は、ご登録の住所に、印刷所より宅配業者のメール便にて配送しているため、郵便局へ転送届を提出しても転送されません。

◇『社会教育学研究』は年報と統合され年 2 回発行となりました。発行都度一斉送付となります。

◇現在、事務局は祝祭日除く月・木（10:30 ～ 16:30）テレワーク中です。
電話受付はしておりませんので、問い合わせ等はメールでの連絡をお願いいたします。

寄贈図書一覧

No.	著　者	タ　イ　ト　ル	巻 号	出版社	発行年
1	津田英二・伊藤真木子・鈴木眞理　編著	生涯学習と社会教育の基礎		人言洞	2024
2	山﨑功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子　編	地域文化の再創造　―暮らしのなかの表現空間		水曜社	2024
3	日本福祉教育・ボランティア学習学会30周年記念出版編集委員会　編著	研究編　究める！福祉教育・ボランティア学習の課題		大学図書出版	2024
4	日本福祉教育・ボランティア学習学会30周年記念出版編集委員会　編著	実践編　拡がる！ふくしの学び		大学図書出版	2024
5	日本教育法学会　編	学習権保障と教育行政の変容	第53号	有斐閣	2024
6	玉井正明・玉井康之　著	木下恵介監督映画「なつかしき笛や太鼓」の舞台裏　―小島の満天に星は輝く		北樹出版	2025

※事務局受領2025年2月末分まで

※本学会に寄贈された図書・資料については『社会教育学研究』の書評、図書紹介の対象となることがありますので、ご了承ください。

会員動向

〈新規入会〉

金子　晴信　　就学大学・学部生
瀬川　理恵　　なし
田中　亨　　認定NPO法人D×P
高橋　浩一　　東京学芸大学・非常勤
八木　美華　　東北大学大学院

〈所属変更〉

茂野　賢治　　帝京大学

〈退会〉

（北海道ブロック）　松田　剛史
（東北ブロック）　高橋　賢充
　宮越　俊行
（関東ブロック）　金藤　ふゆ子
（東京外国ブロック）　市石　美寿々
　北川　英一
（近畿ブロック）　大前　哲彦（名誉会員）※ご逝去
（中国四国ブロック）　西井　麻美

※前回通信の会員動向で未納のため退会と掲載しました（中国四国ブロック）中俣保志会員は継続となりました。

（2024年12月～2025年3月理事会分まで）

お知らせ・募集

●プロジェクト研究　新テーマ募集（応募要領）

1．趣旨・経緯

日本社会教育学会においてプロジェクト研究は学会員主体の開かれた共同研究を進める重要な取り組みです。ここでは社会教育が直面している重要な課題を研究テーマに設定し、定例の研究会を持ちながら３年程度をかけて研究していきます。

かつては研究担当理事を中心に理事会として研究課題を設定して行っていましたが（宿題研究・課題研究）、2000 年代以降、学会員の多様な関心や問題意識を学会の組織的な研究活動に活かすために、また学会員の主体的参加を保障するために、学会として取り組むに値するテーマを募集・採択し、学会員から広く運営委員を募って研究活動を進めてゆく「プロジェクト研究」として再編されて今日に至っています。

上記を踏まえ、2026 年度開始の新規プロジェクト研究テーマを以下の通り公募します。

2．応募者資格

日本社会教育学会会員の個人ないし複数人によるグループ（ただし、現在進行中のプロジェクト研究の運営委員を除く）。なお、１つの応募につき応募者が４人以下だった場合、当該応募を採択する過程で応募者（テーマ提案者となる）を５～７人へ増やしていただくことになります（プロジェクト研究運営委員会内規第３条）。

3．応募条件

1）会員で広く研究・討議するにふさわしい社会教育研究に関する学術的テーマであること。

2）３年間のプロジェクト研究を担う見通しがあること。

※採択後は、プロジェクト運営委員会内規にそって運営委員会を組織し、六月集会および研究大会などでプロジェクト研究の企画・運営を担っていただきます。

4．応募方法

「日本社会教育学会プロジェクト研究　新テーマ提案書（様式）」を学会サイトから入手し、これを用いて作成の上、６月１日（日）までに学会事務局宛にメール添付で提出。

1）応募者の氏名・所属（複数人での応募の場合は代表者を明記）

2）提案する研究テーマ

3）研究テーマ設定の趣旨

4）提案する研究テーマの下で探究すべきと考える検討課題

5）研究期間中の見通し

※応募に関する不明点や問合せは、研究担当理事までお寄せください。応募に際しての事前相談も歓迎いたします。過去あるいは現在進行中のプロジェクト研究の経験を紹介すること、学会員どうしをつなぐコーディネート等の支援も行います。

5．選考・採択後のスケジュール

・提案書にもとづき常任理事会で審議・決定（採択）します。採択までの過程で、複数のテーマの統合や、テーマ名の変更が提案されることがあります。

・常任理事会での採択後、研究担当理事が全国理事会と会員総会で報告します。その過程で、応募者（提案者）と研究担当理事の間で協議の場を設ける場合があります。

・会員総会で報告がなされた後、応募者（提案者）は代表者を中心に、会員に向けてプロジェクト研究運営委員の公募を行い、常任理事会での承認を経て、運営委員会を発足させます。

・翌年（2026 年）の六月集会からプロジェクト研究の企画を実施していただきます。

6．【照会・提出先】

日本社会教育学会事務局

（jssace.office@gmail.com）

以上

お知らせ・募集

第 16 回日韓学術交流研究大会のご案内

李正連（東京大学）

第 16 回日韓学術交流研究大会は今年 5 月に日本で開催されます。今回からは両学会の協議を経て秋期ではなく、春期に開催することとなりました。今回は、日韓両国のみならず、近年の世界諸国の政治状況から見ても非常に重要な課題といえる「民主主義を創造する社会教育・生涯学習」をテーマに、日韓の研究者、実践者が集い、実りある議論ができることを目指します。詳細は以下の通りです。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1. 日時：2025 年 5 月 17 日（土）9:00-18:00（終了後、懇親会有り）
（＊ 16 日（金）はエクスカーション）

2. 開催方法：対面・オンライン併用（ハイフレックス方式）

3. 開催場所：立教大学 14 号館 4 階 D401 教室（池袋キャンパス）
〒 171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1　https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/

4. テーマ：「民主主義を創造する社会教育・生涯学習」

5. 共催：日本社会教育学会・韓国平生教育学会　（担当校：立教大学）

6. 参加費：
・現地参加
会　員：一般 1,500 円、大学院生：1,000 円（参加費には、大会資料集の代金が含まれます）
懇親会費は別途徴収
非会員：一般・大学院生 1,500 円、学部生無料
・オンライン参加：無料

7. スケジュール：
・5 月 16 日（金）エクスカーション（西東京市柳沢公民館）
・5 月 17 日（土）研究大会、懇親会

8. 参加申込期限及び申込方法
・申込期限：現地参加は 4 月 30 日（水）、オンライン参加は申込締切が 5 月 9 日（金）となりますのでご注意ください。
・方法：下記グーグルフォーム、または QR コードからのお申し込みとなります。
https://forms.gle/kt5gmPPZUWE9yKgU9

お知らせ・募集

●六月集会について

2025 年度六月集会（6 月 7 日（土）～ 8 日（日）日本女子大学）の参加は、事前申込のみとなります。当日の参加受付はいたしません。金銭の授受もしませんので参加費も事前振込といたします。

また、今後の状況次第では、オンライン開催となる可能性もありますので、必ず事前申込をしていただきますようお願いいたします。

≪参加申込み≫

学会ＨＰの申込システムからの申込になります（学会 HP に掲載のプログラムをお読みの上、お申込みください。）

参加費も申込締切日までの事前振込になりますのでご注意ください。

申込み受付は、5 月 1 日（木）～ 5 月 15 日（木）です。

問合せ先：事務局アドレス（jssace.office@gmail.com）

●第 72 回研究大会　自由研究発表・ラウンドテーブルの申込み

第 72 回研究大会は 9 月 12 日（金）～ 14 日（日）鹿児島大学にて開催される予定です。

≪自由研究発表≫

学会 HP の申込システムからの申込になります（学会ＨＰに掲載の要領をお読みの上、お申込みください）。

受付期間：5 月 26 日～ 6 月 10 日（〆切厳守）

発表時間の指定およびお申込み後のキャンセルはご遠慮ください。

＜大会参加申込み＞については、研究大会プログラムにてお知らせいたします（7 月末頃 HP に掲載予定）。

≪ラウンドテーブル≫　3 日目　9 月 14 日（日）予定（時間未定）

ラウンドテーブルを希望される会員は、以下の項目をご記入のうえ、メールにて事務局へお申し込みください。

①テーマ

②コーディネーター氏名・所属（コーディネーターが複数の場合は、責任者を明記のこと）

③報告者氏名・所属

④内容（200 字以内）ここに記載された内容は、そのまま 2025 年 7 月下旬発行予定の「研究大会プログラム」に転載させていただきます。

⑤代表氏名・所属・メールアドレス

⑥締め切りは 6 月 30 日（月）

※お申込みの際は、件名をラウンドテーブルとし、内容は添付ファイルにして下さい。

※送付先：事務局アドレス（jssace.office@gmail.com）

「学会からのお知らせ」

2025 年 第 1 号（「学会通信」からの通号 243 号）

2025 年 4 月 25 日発行

【発行】日本社会教育学会　事務局

〒 189-0012　東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail: jssace.office@gmail.com　　https://www.jssace.jp/

【編集】古里貴士・前田耕司・村田和子（担当理事）、新関ヴァッド郁代（担当幹事）、向井　健（事務局長）

【レイアウト】市民活動サポートセンター・アンティ多摩 E-mail: auntytama@a-simin.sakura.ne.jp